

市民活動・ボランティアを始めた人にも…

市民活動・ボランティア

MIE NON-PROFIT ORGANIZATION & VOLUNTEER NEWS

2006年 2月号
平成18年1月25日発行
通巻86号



◆発行◆
514-0009
津市羽所町700番地
アスト津3階
みえ市民活動ボランティアセンター
Tel.059-222-5981
Fax.059-222-5971
E-mail seiknpo@pref.mie.jp
NPO室のホームページ
<http://www1.mienpo.net/npot>
三重県のホームページ
<http://www.pref.mie.jp>

市民活動・ボランティアニュースは
こちらにあります!

【地域の市民活動センター等】津市市民活動センター(津市大門7-15 津センターバース3階) / オールウェイズ(津センターバース1階) / 津中央郵便局ボランティアコーナー(津市中央) / (有)デザインオフィス萩野(津市大谷町301-1) / 市民活動情報ネットワークすずかのぶどう(鈴鹿市白子駅前18-15) / 南勢町市民活動室連絡協議会(南勢町五ヶ所浦3917町民文化会館内) / 特定非営利活動法人伊勢志摩NPOネットワークの会(伊勢市一色町2) / 鳥羽NPOネットワークセンター・結(鳥羽市鳥羽1-3-8) / 特定非営利活動法人みえきた市民活動センター(桑名市田町33) / 四日市市民活動センター(四日市市蔵町4-17) / 寺子屋プロジェクト(四日市市天ヶ須賀4丁目9-19) / ウィリアム テルズ・アップル まちづくりセンター(伊賀市上野福居町3317) / みえ市民活動ボランティアセンター(津市羽所町700アスト津3階) / 伊賀市中央公民館 / 伊賀市立図書館 / 上野青年会議所 / 名張市立図書館 / 名張青年会議所 / 皇学館大学名張キャンパス / 名張市総合福祉センター / エコリソート赤目の森(名張市上三谷268-1) / 明和町市民活動サポートセンター(明和町馬之上944-5) / 三重中央大学(松阪市久保町1846) / 松阪市市民活動センター(松阪市日野町788) / 名張市市民活動センター(名張市夏見2812) / 松阪まちづくりセンター「まちの駅松阪「寸庵」」(松阪市本町2217) / 伊賀市市民活動支援センター(伊賀市馬場1128番地) / ぐらしの情報センター同夢(名張市夏見251-1パークシティなばり) / 伊勢市民活動センター(伊勢市岩淵1丁目2-29)

【地域の社会福祉協議会】県内の市町村社会福祉協議会
【金融機関】百五銀行各店 / 三重銀行各店 / 東海労働金庫各店
【行政機関等】三重県庁県民ホール(津市広明町13) / 三重県地域機関(各県民局)(桑名、四日市、鈴鹿、津、久居、松阪、南勢志摩、伊賀、紀北、紀南) / 三重県民サービスセンター(情報公開窓口) / 三重県総合医療センター / 三重県立一志病院 / 三重県立志摩病院 / 三重県立こころの医療センター / 富貴歴史博物館 / 三重県立博物館 / 三重県立図書館 / 三重県生涯学習センター / 三重県男女共同参画センター「フレンドみえ」 / 三重県人権センター / 三重県身体障害者総合福祉センター / 三重県環境学習情報センター / 各市町村役場



はじめての
一歩
これから市民活動・ボランティア活動を始めたという方、始めたばかりという方の疑問などにお答えします。

ボランティアを始めようとする場合、どこでボランティアをしたいのかという課題が出てきます。それとは逆に、ボランティアに来て欲しいなあと考えている団体もあります。みえ市民活動ボランティアセンターにも社会で自分を必要としてくれる場所を探している若者がいます。本当に長い時間をかけて、ボランティア情報を見ていきます。実際に、その方と団体をつなぐことはなかなかできません。ボランティア活動は、「わたしがやるんだ」という自発的な想いに支えられています。その自発的な想いには、その人を動かすなにかがあります。例えば、里山を守りたいという自発的な想いは、子どもたちと楽しい思い出を分かちあいたいという動機があったりします。そういった思い出や体験などの動機は、似ていても、最終的にはその人だけのものです。だから、ボランティア活動は、同じ事をしているようでも、人によりかわり方は違ってくるのです。

団体の活動にボランティアの方に係わってもらうには、やはり、具体的に自分たちの行動を伝えていくしかありません。自分たちの活動をわかりやすく伝えていくことが大切です。自分の中にある想いに気がついたとき、それを活かせる場が多くあって、そのことを知って活動できることは、生活するのが楽しい町だと思います。(文責:NPO室 森下道大)

【特定非営利活動法人認証申請団体と成立団体のお知らせ】

特定非営利活動法人(NPO法人)申請は12団体ありました。引き続き、認証申請を受け付けています。申請のあった団体と成立した法人を紹介します。なお、関係書類は三重県生活部NPO室及び各県民局生活環境森林部に備え置いてあります。

- 認証申請団体 (1)名称(2)代表者氏名(3)法人事務所の所在地
(1)みどりの家(2)石谷由里(3)四日市市日永四丁目2番41号
(1)四日市男女共同参画研究所(2)坂倉加代子(3)四日市市曾井町332番地1
(1)四日市市建築防災センター(2)平澤秀二郎(3)四日市市沖の島町3番15号
(1)おしゃべり工房(2)益川英明(3)四日市市松原町12番3号
(1)NPO法人文化創造塾(2)笠井瑞穂(3)津市高野尾町5331番地1
(1)三重精神保健福祉会(2)一之宮照長(3)津市久居明神町2501番地1
(1)子どもステーションくまの(2)小山芳子(3)熊野市久生屋町163番地の2
(1)EM環境ネット津(2)伊藤憲次(3)津市東丸之内32番4号
(1)ユニバーサルデザイン同夢(2)孫 美知(3)伊賀市四十九町1278番地の26
(1)松阪わの会(2)池添美津子(3)松阪市小片野町734番地
(1)動物との共生ネットワーク(2)杉田千代子(3)松阪市小黒田町236番地27
(1)ブルーリボン(2)福田智女(3)鈴鹿市十宮一丁目8番20号
(平成17年12月15日～平成18年1月14日申請分)

- 成立した特定非営利活動法人(登記年月日)
特定非営利活動法人さんぽ倶楽部(平成17年12月20日) (平成17年12月15日～平成18年1月14日届出分)

つながる 10 県ボランティアセンター 北出真由美

年明け早々、各地から豪雪被害の情報が届いています。こうした異常ともいえる気象現象が話題になると、地球温暖化から環境問題へと話はつながっていきます。

そこで、あらためて、自分もどのくらい環境問題を気にしているかを考えてみました。単純ですが、使い捨て製品を使っているかどうかから。すると、冬は必ず使っている物が!それは、使い捨てカイロです。あまりの便利さに当然のように手にしていました。これに気付いた時、いまさらながら、かなりショックを受けました。使い捨てカイロの材料には、環境に大きな害を与えるものは含まれていないようですが、やはり、意識の問題もあります。寒がりの私は、おそらく人より使う量が多いはず。せめて、繰り返し使えるものとの併用を考えないといけません。これ以上、雪の被害が広がらないことを願いつつ、まだまだ、叩けば出てきそうな身のホコリを点検しています。

情報をお寄せください。市民がつくる市民活動の情報です。
ホームページ版、朗読テープ版もあります。お気軽にお問い合わせください。

イベントスケジュール

【科学技術振興センターより】

食の安全安心フォーラム「魚の安全安心を考える」

- とき／2月4日(土) PM0:30受付
PM1:00～PM4:30
- ところ／三重県水産会館5階大会議室
(津市広明町323-1)
- 参加費／無料(先着順)



●内容／「食の安全・安心」に対する消費者の関心が高まるなか、食品生産・流通現場での対応が急がれています。このフォーラムでは、水産県「三重」に関連が深い、魚の安全性をテーマに、それぞれの現場で安全性の確保に取り組まれている方から最新の取組について紹介していただき、消費者との意見交換を通じて、「食の安全・安心」と水産業について考えます。

科学技術振興センターテクノカレッジ 第11回なるほど・なっとくセミナー

- とき／2月25日(土) PM1:00受付 PM1:30～PM4:00
- ところ／県久居庁舎2階第25会議室(津市久居明神町2501-1)
- 参加費／無料(先着順)
- 内容／「身近な食材の安全性と秘めたチカラ」をメインテーマに、私たちに身近な食材の、安全性はもちろん、その食材の持つ知られざる機能性や有効性を豊富な実例を紹介しながらわかりやすく解説します。前回のモロヘイヤ、アサリに続いて、今回は「たまご」と「きのこ」がテーマです。身近な食材の安心生産の様子、あまり知られていない豊富なチカラ、調理例によるわかりやすい利用法など、ぜひ会場で実際に確かめてください。1つのテーマだけの参加もできます。
- 応募締切／2月24日(金)(余裕があれば当日参加可)

- 申込方法(いずれも)／名前(グループの場合は代表者のみ)、参加人数、連絡先(電話番号)を、電話、Fax、E-mailのいずれかで下記まで。なお、ご意見、ご質問も同時に受け付けます。
- 申込・問い合わせ先(いずれも)／三重県科学技術振興センター総合研究企画部 研究企画グループ Tel.0593-29-3609、3620 Fax.0593-29-8016



【流域案内人企画行事】

“おいしい”を味わう力がありますか？
～地域の味を次世代に伝える味の教育～

昔の食卓コーディネイトと座布団作り

- とき／2月4日(土) AM 10:00～PM3:30
- ところ／大台町(旧宮川村)内
- 参加費／2500円(昼食代・料理体験おみやげ代、保険代含む)
- 内容／昔の食卓をコーディネイトすることで、一汁一菜の料理と座布団づくりを行います。参加対象は小学1年生から一般まで。ご家族でもお楽しみいただけます。
- 持ち物／動きやすい服装と運動靴、雨合羽(上下別れたもの)、筆記用具、お弁当箱など
- 募集人数／20人
- 企画・実施・申込・問い合わせ先／519-2633 多気郡大台町久豆199 大杉谷自然学校 Tel.0598-78-8888 Fax.0598-78-8889 E-mail osn@ma.mctv.ne.jp
- 主催／せせらぎ会

森林療法勉強会

- とき／2月9日(木) PM7:00～PM9:00(以後、平成18年3月まで、毎月第2木曜に開催予定)
- ところ／伊勢シティホテル(JR・近鉄伊勢市駅・近鉄宇治山田駅より徒歩3分)
- 参加費／1500円(資料代含む)
- 内容／森林療法研究会三重では“癒される町づくり”を目的とした「森林で心と身体を健康に癒すための「あまねく人々の心を癒す森林浴体感交流会」を行います。今後は更に研究分野を広げ、“植物と地球環境の現在と未来”森林と健康への方向性を考えています。なお、森林療法研究会三重の会員も同時募集しています。(入会金

1000円・年会費2000円、入会記念特典・幸せを呼ぶ可愛い“トファーバッジ”)

●申込・問い合わせ先／516-0802 伊勢市御園町新開942-3 NPO法人 植物セラピー普及協会・森林療法研究会三重

Tel.&Fax.0596-31-0887

●主催／森林療法研究会三重

御頭神事(おがしらじんじ)紹介

- とき／2月11日(土)(雨天決行)
- ところ／伊勢市御園町 高向大社
- 参加費／獅子舞は、日本全国で見られる伝統芸能で、三重県内にも200以上あるといわれています。その中でも獅子頭そのものを神様とする「御頭神事」は、宮川流域に集中して受け継がれている珍しいまつりです。2月11日の早朝、高向地区の人々総出で御頭神事は午前6時に幕を開け、「日和見儀式」、「七起こしの舞」、「布久目物巡回」、「七起こしの舞」、そして、夜になると「打祭」と翌朝2時まで続きます。その中で、午後2時から午後4時の「袴屋番さん宅に於ける竜頭の舞い」の紹介をします。宿泊を希望される方は流域案内人である北村武久さんの自宅に自炊で宿泊もできます。
- 申込方法／住所・氏名・電話番号を下記まで。
- 申込・問い合わせ先／伊勢市御園町高向2617 北村武久(宮川流域案内人) Tel.0596-22-4963 E-mail takecham@amigo.ne.jp

熊野わき道 みち草で行く その「ろ」の段

- とき／2月12日(日) PM1:00～PM8:00ぐらい(雨天決行)
- ところ／大紀町(旧大宮町)七保支所前集合
- 参加費／600円(保険通信費、おにぎり・味噌汁付き)
- 内容／熊野脇道。熊野本街道から分岐した道で旧大宮町から度会町をぬけ玉城町へつづく道。倭姫命伝説が残る道沿いの自然、文化、遺跡、むかし話などをおりまぜてみち草をしながら瀧原から田丸まで行くものです。今回の昼の幕は、大紀町木屋地区の本地師の集落を見て、こうもり穴(石灰洞窟)に入洞もできます。夜の幕は庚申講の見学です。参加対象は自家用車と徒歩で移動でき、参加中の自己責任がとれる方。参加中の事故怪我などについて、主催者は一切責任を持ちません。なお、参加者は振込み票のコピーを当日お持ちください。
- 用意する物／自家用車(冬期なので冬用タイヤまたはタイヤチェーンがあれば心強いです)、お茶、甘いもの、雨具、タオル、帽子、長靴、懐中電灯、手袋、軍手
- 応募締切／1月31日(火)
- 申込方法／郵便局で下記口座あてに参加費を振込。通信欄に「「ろ」の段」と、各自の住所・氏名・電話番号・生年月日をかならず明記してください。主催者が中止のときのみ返金いたします。口座番号00890-3-91646 廣瀬 元久
- 主催・問い合わせ先／廣瀬元久(宮川流域案内人・NPO法人災害ボランティアネットワーク鈴鹿社員) Tel.090-7040-7102 Tel.&Fax.0598-87-1106



川添神社のごみかけ祭を見よう！！

- とき／2月19日(日) AM11:00(雨天中止)
- ところ／グリーンプラザおおだい集合(大台町栃原1691-1 Tel.0598-85-1130)～川添神社(大台町栃原)
- 参加費／100円(保険代・その他)
- 内容／栃原区、新田区の二つの当番組により、団子、サカナ、酒を持って道を練り歩き、川添神社に到着後、氏子等みんなで神前において五穀豊穡のお祈りをして「万才楽」「弓射」「苗松行事」が行われる奇祭です。2km程歩きます。すべての祭りが終了するのは夕方となりますが、終了までの拘束はしません。
- 持ち物／防寒具
- 申込方法／住所・氏名・電話番号・生年月日(保険加入に必要)を下記まで。
- 主催・申込・問い合わせ先／大台町新田521-1 筒井 敏 Tel.0598-85-0410 大台町新田448-1 林 紘典 Tel.0598-85-0344 大台町新田561-4 上山 渡 Tel.0598-85-0159

みえ監査フォーラム2006

- とき／2月8日(水) PM1:00～PM4:00

- ところ／三重県人権センター 多目的ホール (津市一身田大古曾693-1)
- 参加費／無料
- 内容／三重県では、事務事業及び財務執行の合规性、透明性、正確性の確保に基礎を置きつつ、3E(経済性、効率性、有効性)、VFM(バリュー・フォー・マネー:支出に見合う価値)及びBV(ベスト・バリュー:サービスの質と改善可能性)の視点を重視した監査に取り組んでおり、特に行政監査では、県の総合計画の施策を対象に評価方式による監査を実施しています。このフォーラムは、平成17年度の定期監査、行政監査(評価)の結果を県民の皆さんにご報告するとともに、これからの監査のあるべき姿について意見交換し、考えることを目的としています。
- 応募締切／2月3日(金)(当日参加も可能ですが、開場準備の都合上、できるだけ事前申込を)
- 申込方法／電話、郵送、Fax、E-mailで下記まで。参加者名、住所または所属、連絡先を知らせてください。
- 申込・問い合わせ先／514-8570 津市広明町13番地 三重県監査委員事務局 (担当:伊藤、中西(健)、井畑)
Tel.059-224-2924 Fax.059-224-2220
E-mail kansai@pref.mie.jp
ホームページ <http://www.pref.mie.jp/KANSAI/HP/>

少子化を考える国民の集い

子ども、子育て家庭をささえあう地域社会をめざして
～企業もささえる三重の次世代育成～

- とき／2月11日(土) 正午開場 PM1:00～PM4:30
- ところ／アスピア(名張産業振興センター)
- 内容／内閣府少子化対策推進室参事官の増田雅暢さんによる政府における取組の報告のあと、読売新聞東京本社生活情報部記者、榊原智子さんの基調講演「子育ての新たな支え合いと連帯」、シンポジウムを開催します。
- 募集人数／先着250人
- 主催／内閣府、三重県

バレンタインディー♥ フェアトレード・カフェ

●とき／2月12日(日)AM11:00
～PM4:00

- ところ／アスト津3階交流スペース
- 内容／あなたの愛を世界の人に届けよう。フェアトレード・チョコレートを紹介します。
- 問い合わせ先／すずかのぶどう Tel.0593-87-0767



環境活動の交流と協働の場

- とき／2月14日(火)AM9:45開場 AM10:00～PM5:00
- ところ／三重県教育文化会館5階大会議室 (津市桜橋2丁目142 津駅東口より東へ徒歩5分)
- 参加費／無料
- 内容／環境活動としての連携がうまくとれていない団体や個人活動家の皆さん、これから一層活動を広めていきたいという皆さんに「活動の場・人材・活動手法」といった情報を提供し、そして共有することで「環境活動の広がりができること」、さらに「環境保全を實踐できること」を目的として開催します。当日は第1部「環境活動の交流と協働の場」、第2部環境パートナーシップに関するワークショップの2部構成です。
- 応募締切／2月4日(土)
- 申込方法／申込書をFaxか郵送で下記まで。
- 申込・問い合わせ先／514-0002 津市島崎町3-1 三重県島崎会館2階 みえ環境県民運動協議会(通称:環境創造リーグ)(担当:奥山、中原)
Tel.059-221-1605 Fax.059-221-1606
E-mail info@mie-kleague.jp
ホームページ <http://www.mie-kleague.jp/>

桂文我の親子寄席

- とき／2月18日(土) 開場PM1:30
開演PM2:00～PM3:00予定
- ところ／中川コミュニティセンター大集会室 (松阪市嬉野中川町)

- 参加費／小中学生300円 高校生以上500円 (当日券無し、未就学児は入場できません)
- 内容／笑う門には福来たり。大人も子どもも落語を聞いて大いに笑いましょう。松阪在住の桂文我さんは子どもへの落語の語り手としては日本一。語りひとつで想像力をかきたてる落語は、日本が誇る大切な大衆文化です。
- 募集人数／300人
- 申込方法／中川コミュニティセンターで取り扱い(毎週土曜日PM1:30～PM4:00)。この時間は一年を通じて、子どもたちの遊びの広場になっています。どなたでも参加できます。詳しくはお問い合わせを。
- 主催・問い合わせ先／子どもの居場所と世代間交流事業・町民ボランティアはじめのいっぽ(コーディネーター:山際) Tel.0598-48-0735 (代表:茅谷) Tel.0598-42-8135



ワイワイガヤガヤフェスタ

歌とおどりで世界はひとつ

●とき／2月19日(日)PM12:30開場
PM1:00～PM4:30

- ところ／津リージョンプラザお城ホール
- 参加費／入場無料
- 内容／各国の歌や踊り、ゲームなどで楽しいひとときを過ごしませんか!津市在住の外国人と市民が一堂に会し、相互理解を深めるなかで、それぞれの文化が共存できるゆたかな地域づくりを考えるイベントです。
- 問い合わせ先／植田賢一 Tel.059-227-5886
- 主催／ホームステイ・イン津実行委員会、津市



みんな集まろう !!

第2回川のワークショップみえ

- とき／2月19日(日)AM9:30～PM5:00
- ところ／三重県庁講堂(津市広明町13番地 津駅西口南へ徒歩10分)
- 内容／山～川～海に関するさまざまな取り組みが歌、劇、紙芝居など、色々な方法で発表されます。今回も、県内各地の活動を見に、聞きに来ませんか!!皆さん、お誘いあわせて気軽にお越しください。当日、お手伝いいただける方も募集しています。
- 申込・問い合わせ先／川づくり会議みえ(事務局:久世)
Tel.090-5637-0727 E-mail kuze2@bronze.ocn.ne.jp
ホームページ <http://kawamie.npo.gr.jp>

三重県市町村保健師協議会主催

発達障害者支援セミナー

- とき／2月28日(火)PM12:40～PM1:00受付
PM1:00～PM4:30
- ところ／三重県総合文化センター生涯学習センター4階大研修室
- 参加費／無料
- 内容／発達障害者支援法が成立してもうすぐ1年がたとうとして、発達障害者支援施策の具体化と発展のための支援のあり方について、中京大学社会学部助教授の辻井正次さんに講義していただきます。テーマは「発達障害者支援法の具体化に向けて ～自閉症・広汎性発達障害児者の理解と支援～」です。
- 応募締切／2月20日(月)
- 申込方法／氏名、電話番号を記入の上、FaxまたはE-mailで下記まで。
- 申込・問い合わせ先／515-1302 松阪市飯南町横野885 三重県市町村保健師協議会 松阪市飯南地域振興局 飯南ふれあいセンター(担当:田島栄子) Tel.0598-32-8020
Fax.0598-32-8111
E-mail e.tajima@city.matsusaka.mie.jp
- 主催／三重県市町村保健師協議会



成瀬巳喜男生誕100周年記念・特別連続上映

青春キネマ館「驟雨(しゅうう)」

- とき／3月8日(水)
AM11:00、PM2:00、PM8:00(1日3回上映のみ)

- ところ／伊勢進富座 ●参加費／800円
- 内容／結婚4年目の夫婦のもとに、新婚旅行から戻ったばかりの姪が訪れてきて…。夫婦の倦怠期を描いた作品ながら、郊外のユーモラスな風俗描写や健気なヒロインの設定が際立つ愛すべき作品。原節子の演技が際立ちます。青春キネマ館では成瀬巳喜男生誕100周年を記念し、成瀬作品を2月、3月と連続上映します。
- 問い合わせ先／青春キネマ館&キッズシアター上映実行委員会
Tel.0596-23-0839 (受付時間PM7:00~PM10:00)

こだわりガイド講座の第2弾『超表現力!』

- とき／3月11日(土)PM1:00~12日(日)PM3:00(1泊2日)
- ところ／大杉谷自然学校
- 参加費／一般5500円 学生4500円
(1日目夜~2日目昼の食費、保険料、温泉入浴料を含む)
- 内容／お笑いと演劇、自然体験活動とはまったく違う世界の専門家から、人に伝える魅力的な表現力を学びます。お笑いワークショップでは、「つかみ」や楽しませる話術のコツを、演劇ワークショップでは、シアターゲームの手法を使った「コミュニケーション」のコツなどを学びます。体験活動の指導や、自然ガイドの際に自分を表現する力を磨く内容です。講師は授業づくりネットワーク理事長・教育ライター・大学講師の上條晴夫さん、油田倉庫代表であり、劇作家・演出家である油田晃さんです。
- 募集人数／20人
- 申込・問い合わせ先／519-2633 多気郡大台町久豆199
大杉谷自然学校(池田直代) Tel.0598-78-8888
Fax.0598-78-8889 E-mail osn@ma.mctv.ne.jp
ホームページ <http://www.ma.mctv.ne.jp/-osn/>

名張市市民活動支援事業 老人介護講演会

- とき／3月12日(日)AM10:00~PM4:00
- ところ／名張アスピア
- 内容／「愛知の組織づくり」野上美千代さん(はじめのいっば)、「地域で老いを支えること」村瀬孝生さん(宅老所よりあい)、「親子じゃないけど、家族です」阪井由佳子さん(富山型デイケアハウスにぎやか)
- 申込・問い合わせ先／NPO法人和嬉会愛(わきあいあい)
(担当:中山 PM8:00以降)
Tel.0595-68-2390
Fax. 0595-68-2390



長良川河口堰を考える勉強会

河口堰を作ることによって自然環境はどのように変わったか

- とき／3月19日(日)AM10:00~PM3:00
- ところ／【勉強会】AM10:00~正午
長島公民館2F会議室(桑名市長島町松ヶ島61-3)
【見学会】PM1:00~PM3:00
アクアプラザながら、長良川河口堰(桑名市長島町十日外面139)
- 参加費／無料
- 内容／2005年7月6日、長良川に河口堰が作られ、ゲートが降ろされて10年がたちました。(財)日本自然保護協会が、長良川河口堰運用後10年が経ったのを機会に、運用後の環境変化とそのしくみ、それらの変化が地域社会に及ぼした影響を明らかにする企画を始めています。そこで自然観察指導員三重連絡会は、これまでの研究者や日本自然保護協会の取り組みを、広く一般に公開する勉強会を計画しました。川と海の自然が融合する環境に河口堰を横断させ、閉じたことで自然環境はどのように変わったのでしょうか。10年間見続けてきたことで、見えてきたことをお伝えします。勉強会では名古屋女子大学教授の村上哲生さんに「プランクトンやクロロフィルを中心とした水質」、岐阜大学教授の山内克典さんには「底生生物とヨシ原」についてお話いただきます。
- 主催・問い合わせ先／自然観察指導員三重連絡会(事務局:木原)
Tel.090-3481-3637



ネットワークのよびかけ

エコリンピック2006参加者募集

さまざまな環境問題に取り組んでいる団体の活動をより多くの方々
に知っていただき、多くの人に新たに参加していただく機会をつくり
だし、日頃の活動をたたえ将来性のある団体を応援するとともに、将
来にわたっての地域単位でのネットワークを形成していくことを目
的に開催します。

- 【エコリンピック2006 活動発表会】
- とき／3月12日(日)AM10:00~PM5:00
- ところ／三重県津地方県民局本館6階 大会議室

- 応募締切／2月10日(金)
- 応募団体資格／1、県内に団体住所地があり、活動する地域が県内
であること。
2、17年度環境県民活動推進事業の支援対象団体でないこと。
3、17年度に三重県から助成金などの経済的支援を受けていないこと。
4、過去の「エコリンピック2004・2005」の支援対象団体であつても
参加できません。
- 支援対象団体数と支援金額／上限20団体を表彰。17年度末に
環境創造活動運営助成申請書を提出することにより、18年度の団
体運営費(上限20万円)の支援資格が得られます。
- 申込方法／応募様式はホームページからダウンロードするか、最
寄りの市民活動ボランティアセンター、県民局(生活環境森林部)で
入手してください。
- 問い合わせ先／510-0304 津市河芸町上野3258番地
(財)三重県環境保全事業団内 三重県環境県民会議事務局(担当:
坂野、嶋田) Tel.059-245-7512 Fax.059-245-7517
E-mail kenmin@mec.or.jp
ホームページ <http://www.mec.or.jp/kenmin>

在住外国人のためのコミュニティビジネスも 始めてみませんか!

- ～みなさんのアイデアと実行力に期待します～
- 受付期間／1月30日(月)~3月3日(金)
- 委託の対象となる団体・個人／三重県を主たる活動地域とする団
体及び個人で、在住外国人・外国人のためのコミュニティビジネスの
起業を、三重県からの委託事業として自ら実施する意志のあるも
の。営利・非営利、法人格の有無は問いません。
- 委託の対象となる事業／
- 1、県内在住の外国人の生活、労働、教育環境等の改善に役立つ事業
- 2、県内在住の外国人と日本人との相互理解や協力を促す事業
- 3、異なる多様な文化が共生する社会の豊かさを県民が実感するこ
とにつながる事業
- 4、その他、多文化共生社会の構築に役立つ事業
- 委託料／1事業につき50万円を上限とし、2件程度を予定。
- 応募・選考方法／所定の応募用紙(様式第1号)に詳細な事業計画
書、収支計画書(様式自由)、及び団体又は個人の概要が分かる資料
を添付して、郵送により、三重県生活部国際室まで提出してくださ
い。応募用紙及び実施要領は国際室のホームページからダウンロ
ード出来ます。郵送を希望される方はお電話等でご連絡ください。事
業の選考は、応募者の方々から提案事業に関するプレゼンテーショ
ンを行っていただき(3月13日実施)、その内容と応募書類の両方
を基に選定委員会が審査し決定します。
- 問い合わせ先／514-0062 津市羽所町700アスト津3階
三重県生活部国際室 Tel.059-222-5974
Fax.059-222-5984
ホームページ <http://www.pref.mie.jp/KOKUSAI/HP/>

フリーマーケット情報

フリーマーケットin四日市ドームVOL.20

- とき／2月12日(日)AM10:00~PM4:00
- ところ／四日市ドーム(四日市大字羽津甲5169)
- 入場料／当日525円、前売315円
- 内容／会場内ステージにてマインドオブコア主催による東海地区
を中心に活動するインディーズバンドのライブイベントおよび、ウル
トラピンゴゲームを開催。総ブース数は700。

第5回井植記念「アジア太平洋文化賞」

- 受付締切／2月28日(火)消印有効
- 助成の対象／アジア太平洋地域における文化的・社会的な実践活動を通じて、国際交流や地域発展に顕著な貢献をした個人または団体。国籍や所在地は問いません。
- 受賞者数と賞／受賞者数は1名または1団体。正賞および副賞500万円。
- 応募方法／推薦書はホームページからダウンロード可。
- 問い合わせ先／「アジア太平洋フォーラム・淡路会議」事務局
650-0011 神戸市中央区下山手通4-16-3 兵庫県民会館3階
Tel.078-325-5810 Fax.078-325-5602
E-mail apf-acj@awaji-conference.com
ホームページ <http://www.awaji-conference.com/>

助成財団センターは、助成、表彰、奨学などを行う財団法人・その他の法人などの情報を収集し、活動内容を広く社会に発信していくことを主な目的としています。その情報は冊子で刊行されているほか、ホームページやファクシミリサービスでも閲覧できます。(財)助成財団センター Tel.03-3350-1857 Fax.03-3350-1858
ホームページ <http://www.jfc.or.jp/>

助成金 ニュース

平成18年度MIEF国際化推進事業助成金

- 受付期間／2月1日(水)～28日(火)PM5:00必着
- 助成の対象となる団体／1、三重県内に拠点を置き、地域に根ざした国際交流活動に積極的に取り組んでいる団体。
2、三重県内の国際交流団体で構成する団体。
- 助成の対象となる事業／1、地域住民と外国人の相互理解を促す事業。
2、在住外国人に対する支援を図る事業。(平成18年度重点事業)
3、国際交流に係る地域の担い手の育成を図る事業。
4、国際協力に関する事業。
5、その他、国際交流・協力事業で、特に必要性が認められるもの。
- 対象事業の期間／平成18年4月1日～平成19年3月31日
- 応募方法／返信用封筒に90円切手を貼り、住所・氏名を明記のうえ、「平成18年度MIEF国際化推進事業助成金資料希望」として資料を請求する

特定非営利活動法人 みえきた市民活動センター

511-0068 桑名市田町33 Tel.0594-27-2700 Fax.0594-27-2733
E-mail miekita@mie-kita.gr.jp ホームページ <http://www.mie-kita.gr.jp/>

第1回「桑名市まちづくり協働会議」の印象など…

年末も押し詰まった12月26日、午後1時30分から3時30分まで、桑名市役所3階第二会議室で、第2回の「まちづくり協働会議」が開かれました。会議の目的は、「市民と行政が協働のまちづくりを推進していくための新たな市民参画の指針を作成する」ということでした。その様子などの簡単な報告をしますね。といってもあくまで私が受けとめた印象という程度ですので、正確な内容などは事務局の市民部市民課市民活動支援室に確認してくださいね。

今回は、前回の会議を受けて、この会議で議論する内容やスケジュールを話し合いました。

基本的な認識として、新市建設計画は多度町長島町桑名市が合併したときの約束なので、それにそった新市の総合計画づくりを行っているという位置づけでした。この協働会議で議論する内容を桑名市の総合計画にどのように反映できるのかということから、総合計画策定のスケジュールの確認をしました。新市建設計画にもとづき、各セクションで立案されていて、2月をめどに大枠を出してくるのだそうです。それを4月に基本計画案として検討してまとめ、5月に庁内本部会議で検討、6月には「地域審議会」と「桑名ふるさとづくり委員会」で検討が行われ、9月に市議会に提出というスケジュールだそうです。気になったのは、新市の総合計画を公開して市民などから意見を求めるパブリックコメントを、この総合計画づくりでは行うのかどうかについて、事務局にあらためて確認してもらうことになりました。

そこで、この協働会議の意見を総合計画に反映できるかどうかについての話になりました。ただ、総合計画の施策の大綱-基本項目(案)に羅列されている項目が縦割りでガチガチというのではなく、内容的に縦軸と横軸というような展開が可能ということでした。この協働会議の担当部分については、新市建設計画の「7.みんなで作るまちづくり」の中の「(4)市民との協働によるまちづくりの推進」というところで示されています。それを受けたのが「桑名市総合計画 施策の大綱-基本項目(案)」です。

また、2月の段階で各会議から出されてきた素案を提示してもらい、その中で協働会議の意見を調整して反映していくことが可能ということでした。また、各セクションの人たちと会って意見交換をするということなどもなんとかなるかもしれないということでした。これまでのこのような行政が開催する会議では、事前に行政が下案を持っていてそれを示し、それに対して市民が意見を述べて修正していくという程度のことが多かったという発言もあり、今回はやりがいがあるなあとも思いました。

そこでこの会議の今後の話し合いの内容についての意見交換をしました。

いろいろな意見が出ました。ひとりひとり違ってあたりまえですので、その中で私の感じたことだけを書いてみますね。大枠というのもそうですし、何についてどこまで突っ込んだ内容のもの提出するか。来年秋までにどのような成果物を出すのかのイメージを共有するための議論です。ここでこの協働会議のなすべきことが決まるという場面での議論でした。

たとえば、広報・広聴という活動をしていても、市民からすれば現場の声が届いていないという発言があり、それを届けるしきみを提案するという意見でした。あるいは、市民がやれることはやってきたが、できる範囲は限られている。絞り込んでみてはどうか。それぞれに切り口を示して大枠としてはどうか。「基盤整備-一段-推進策」といった形では、いままでのやり方だけ行政に下案を出してもらって検討してはどうか。どんなによい場所で良いサービスがある飲み屋でも、そこに行くと必ず酔っぱらいに絡まれるようでは人は寄りつかない…などなど。自分で書いても表現力が足りなくて、これでは伝わらないなあと思います、すいません。

けっこうな時間をかけた議論というか、意見交換というか…それぞれに思っていることを発言してもらったのですが、その上で、最終的に、総合計画大綱の基本項目(案)「7.みんなで作るまちづくり」の中の「(4)市民との協働によるまちづくりの推進」というところで示されている4つの項目について、次回までにそれぞれ自分の考えを整理してくるということで落ち着きました。

私としては、「さまざまな取り組みに対する検証の方法をどうするか」、「情報公開のありよう」、「公的資源の使い方に対する考え」、「行政職員として市民自治にどう対処していくか」など、協働のルールに反映すべきことをいろいろと考えています。また、「一定の区域内での各部各課の施策に、連携や整合性を持たせながら、その地域の住民の意見を形にしていける自治のしくみとして、旧多度町や旧長島町、あるいは大山田地区などをひとつの区域とした地域協議会を設置する」など、住民参加の取り組みについていろいろ思うところがあります。それらについては自分の考え方を整理して、次回以降の会議で発言していこうと思っています。

もちろん他にもいろいろな意見がたくさんありましたが、私の感想としてはこんな感じです。今回は1月中に開催したかったのですが、私も含めて委員のスケジュールがタイトなこともあり、2月3日の午前中、9時30分ぐらいから2時間半程度を予定して、閉会としました。

尚、会議の様子や資料などについては、桑名市のホームページに掲載されています。





いせ市民活動センター

パーティいせ情報

■休館日 / 毎週水曜日 (その日が祝日に当たるときは、翌日以後の休日でない日)
 ■開館時間 午前9時から午後10時 <http://skc.e-ise.net>

★パーティ(南館)2階貸ブース
 来年度利用団体募集

いせ市民活動センターでは、来年度4月から3月末日までの来年度1年間の貸ブース利用団体の募集を行ないます。

利用期間：2006年4月1日～2007年3月末日
 来年度1年間の利用料金：30,000円
 募集団体：6団体 (応募団体多数の場合は、抽選となります)
 募集期間：2006年2月2日～2月28日
 対象団体：いせ市民活動センターの登録団体



■貸しブース
 事務所として利用できる3㎡のスペースです
 (鍵付きロッカー1個付き)
 ※契約団体の専用となります

貸ブースの応募は、申請書をセンターまで取りに来ていただくか、ホームページからダウンロードもできますのでご利用ください。受付やお問い合わせは、いせ市民活動センター南館パーティ1階受付です。

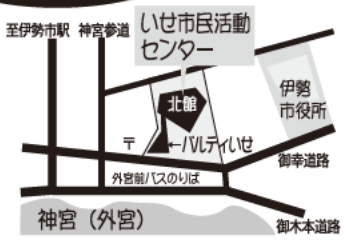
登録団体も随時募集中

いせ市民活動センターには現在76の団体が登録していただいています

- 登録団体となれる対象は、
 - ・伊勢を拠点として活動している市民団体
 - ・伊勢市民が参加している市民活動団体
- また、市民活動団体で伊勢市外に活動拠点があり伊勢市民が参加していなかったとしても、伊勢市の市民公益活動の増進に寄与する団体であるとセンターが認めた場合は、団体登録できることとします。

会合に、情報発信に...
 chchご利用ください!

いせ市民活動センター
パーティいせ
 伊勢市岩淵1丁目2番29号
 TEL 0596-20-4385
 FAX 0596-20-4386
 Email/skc@e-ise.net



このコーナーは伊勢志摩NPOネットワークの会が担当しています
<http://www.po-npo-n.com>

W.T.Aまづくりセンター情報

〒518-0867 伊賀市上野落路町3317 (X-UPPLA) ☎ ☎ ☎
 ☎ tel: 0595-24-9612, 090-3362-0627 (magi.4243@yahoo.co.jp)

2月22日のいせ市民活動センターの集まりは、私たちが主催する「水がけ」のイベントです。また「水がけ」のイベントは、毎週水曜日に開催されています。毎週水曜日に開催されています。

2月22日のいせ市民活動センターの集まりは、私たちが主催する「水がけ」のイベントです。また「水がけ」のイベントは、毎週水曜日に開催されています。毎週水曜日に開催されています。

2月22日のいせ市民活動センターの集まりは、私たちが主催する「水がけ」のイベントです。また「水がけ」のイベントは、毎週水曜日に開催されています。毎週水曜日に開催されています。

2月22日のいせ市民活動センターの集まりは、私たちが主催する「水がけ」のイベントです。また「水がけ」のイベントは、毎週水曜日に開催されています。毎週水曜日に開催されています。

伊賀市市民活動支援センター

年度末が近づいてきました。印刷機の利用は、伊賀の端に位置するにもかかわらず、いろんな方々が使って下さっております。住民自治協議会さんとの連携やNPO関係の情報収集・提供を含めて、来年度の取組みについて検討しております。来月には、運営委員会を開催し、H18年度に向けた取組みを進めていきます。

<お知らせ>
 市民活動団体のための労務研修会の開催について

日時 平成18年2月16日(木)
 午後 2:00～

場所 大山田農村環境改善センター
 多目的ホール

講師 社会保険労務士 志浦久雄 さん
 ※ 参加には申し込みが必要です。
 詳細につきましては下記までお問合せください。

〒518-1395 伊賀市馬場 1128 番地 多目的集会所内
 TEL: 0595-43-1135 (代表)
 FAX: 0595-43-2205
 Eメール: igasksc@ict.ne.jp
 ホームページ: <http://www.city.iga.lg.jp>

休館日: 月曜日・年末年始 (臨時休館あり)
 年末年始の休館日は、12/28～1/4です。
 開館時間: 午前9時から午後9時
 (ただし、午後5時以降は前日予約が必要です。)

▶▶▶▶▶ **がんばれネットワーク** ▶▶▶▶▶

三重県内の市民活動団体の人をリレーで紹介していきます。但し、紹介するに当たってはルールがあります。1・同じ地域で無いこと。2・同じ活動分野で無いこと。さてどんな人がどんなふうに、つながっているのでしょうか。農作業を通して子どもたちに自然の大きさ、生きる喜びを訴えている福森和民さんからバトンを手渡されたのは大山田国際交流友の会の東準一さん。中国広東省を中心に、様々な国の人と交流を行っています。

国交回復後、初の民間使節団として中国へ

……国際交流を始めたきっかけは？

今から30年ほど前。僕は三重県連合青年団(以下、連合青年団と略)の専従スタッフとして事務局長をしていました。当時は県内69市町村に青年団があり、各地から代表が選ばれて三重県連合青年団の活動を行っていました。その活動のひとつに、海外と交流を行う海洋青年大学というのがあり、目的地のひとつに中国が挙げられました。でも、まだ中国との国交が回復していない時期だったので、代議士だった川崎秀二さんや松村謙三さんなど文化革命の頃からすでに中国と交流を行っている方に「中国に行けるようにルートをつけてもらえませんか」とお願いに行ったのですが、「それは無理だよ」と言われました。ところがその後、すぐに中国と国交回復になったのです。1972年のことですね。

……国交回復して、すぐに中国に行かれたのですか？

回復後、1年経っていませんから、民間使節団では初めてでした。同時期に三重県と兵庫県の青年団が中国を訪れました。目的地は北京、上海、天津と同じでしたが、入港したのは三重が上海、兵庫県は天津だったと思います。

……交通手段は？

移民船だったぶらじる丸が廃船になったばかりの時、船主だった三井造船にお願いして、もう一度、船の車検にあたる船検に出してもらいました。1000万円以上かかったそうです。

……資金繰りも大変だったのでは？

参加費と補助金で賅わなくてはいけないので、一生懸命、参加者を募りました。

……実務は東さんが担当されたのですか？

連合青年団会長の西井さんと僕、あと事務局次長の3人で事務は担当しました。事業全体は30数人で話し合って進めました。あと、日本旅行開発という旅行会社にも協力してもらっていました。ここは中国との友好交流を専門にしているような会社でした。そのほか、三井造船からも3人ほど社員の方が派遣されていました。

……大事業ですね。

船を借りるのに1日500万円以上かかるんですよ。だから、参加者が集まらなると船を出すのも大変。僕はシビアな計算はできませんでしたが、三井造船の方たちはしっかりしていました。僕らの方に

顔を出して「今、参加者何人？参加費はいくら集まった？」って(笑)。

……最終的に何人参加されたのですか？

250人です。15人ずつくらいで班を組んで行動しました。

……中国に入学する時はどんな気持ちでしたか？

国交が断絶していましたから、僕らは中国というのがどんな国なのか、わかっていなかったんです。僕らの船が上海の港に入っていくと陸の方から太鼓や鐘の音が高音で聞こえてきたので、「今日、上海は祭りなのかなあ」ってのんびり話していたくらい。それがどんどん近づいていくと「熱烈歓迎」と書かれた大きな横断幕は見えてくるし、太鼓も鐘も、人もすごい数だし。その時になったようやく「どうも、僕らを歓迎してくれているみたいだ」ってわかったくらいです(笑)。第二次世界大戦での中国との関係は見方がいろいろありますが、日本軍が中国に派遣されていたのは事実でしょうか？ですから、中国が僕らを歓迎してくれるなんて思ってもいなかったんです。それが、思わぬ大歓迎。大陸的というか、心が広いというか、そこに感動しましたね。それに、戦争責任は問わずに、日本と中国が仲良くすることが大事だと決断した毛沢東と周恩来、中国の指導者の幅の広い考え方には敬意を感じました。

……印象的なエピソードはありますか？

その頃の中国には20人乗りぐらいのバスしかなくて、250人が移動しようと思うと、バスの列がもの凄く長くなるんですよ。先頭から、最後尾まで、1キロ近くあったんじゃないかな(笑)。

……式典などはどうでしたか？

もう忘れてしまったな(笑)。僕、昼間はほとんど寝ているようなものだったんですよ。昼間はスケジュールがありますから、班長が集まったの会議はどうしても夜中になってしまいます。翌日のスケジュール確認から、挨拶の担当者、お土産の算段。歴史的なことなど言っただけで、資料を作っていたら、もう朝ですよ。だからもう眠たくて、眠たくて(笑)。その分、夜のことはよく覚えてますね。

……中国から戻った後は？

海洋青年大学ではソビエトや東南アジアなどあちこち行きましたよ。戦争が終わってすぐのベトナムにも行きました。

大山田国際交流友の会

……大山田国際交流友の会を作ったのはいつですか？

1985年に中国の青年を大山田村で受け入れることになったんです。これが大山田国際交流友の会(以下、友の会と略)を作るきっかけになりました。この年は国連で国際青年年に定められた年で、それを記念して中国青年訪中友好の船が行われ、中国各地の青年連合会の代表、500人が日本を訪れました。その受け入れを日本青年団協議会が担当したのです。中国の青年たちはいくつかの班に分かれて、日本各地に派遣されたのですが、その内の1班を大山田村で受け持って欲しいと言われました。大山田には連合青年団の役員をしていた者が僕以外にも数人いて、それを連合青年団が見込んだのでしょうかね。

……それが友の会を作るきっかけですか？

大山田で中国の方たちを受け入れるに当たって、個人宅で民泊してもらったんです。前回インタビューに登場された福森さんは当時、



大山田村長で、福森さん宅にも3人預かってもらいました。その中の一人が当時は広東省青年連合会の主席で、今は広東省省長となっている黄華華です。彼と福森さんの気があったのか、福森さんがすごく広東省を気に入って(笑)。「ぜひ交流しよう」ということになって作られたのが友の会です。それ以来ですから、広東省との交流はもう20年以上になりますね。

お互いに腹を割って話そうと思ったら、互いによく知っていないとできません。

……広東省とは姉妹都市なのですか？

姉妹都市ではなく、「日本国三重県大山田村と中華人民共和国広東省人民対外友好協会並びに広東省青年連合会の友好交流に関する意向書」を取り交わしました。まあ、これから仲良くしていきますよという提携ですね。

……具体的にはどんな活動をしているのですか？

相互の土地に友好の森を作りました。中国から「日中友好林」と書かれた記念碑をいただいたので、伊賀市鳳凰寺にある西教山の頂上に友好の森をつくり、植樹などを行っています。中国側は広東省広州市流溪国家森林公園の中にあるダム湖の島に友好林があります。東屋などもあり、島をぐるりと散歩できるようにもなっています。あと、白玉石で作った少女の像があります。着物姿で、鳩を持ち、大山田の方向を向いて立っています。

……人との交流は？

広東省の省民訪日団を受けいれたり、こちらから大山田村民訪中団を派遣したりしています。雑伎団も4回ほど、受け入れました。最初に来たのは広東省雑伎団。当時、この辺りの人は雑伎なんて見たことがないですから、珍しがってね。大山田中学校の体育館で公演したのですが、もう満杯になって、窓の外からも人が見ているくらいでした(笑)。それが面白くて、すぐに2回目を行いました。この時は河南省開封雑伎団に来てもらいました。

……雑伎団を受け入れる資金は？

すべて友の会で出します。それが大変ですね。一つの団体で10数名はいるでしょう？飛行機代だけで120~130万円かかりますし、道具の輸送費も飛行機代と同じく130万円くらいかかります。

……資金はどうやって集めるのですか？

収穫祭りに出店して魚やうどんを販売したり。まあ、そのほか、補助金などで賄っています。

……資金集めも大変ですね。

3回目の河南省累河雑伎団公演の時は、大山田村、青山町、名張市合わせて6回、公演を行ったのですが、この時はチケットを売るのが大変でした。会員が分担して、各地に売りに行くでしょう？大山田村に戻ってくるのが夜中の12時。それから翌日の予定や段取りを決める会議をしていました。みんな、仕事がありますから、どうしても動けるのが夜になってしまうんです。僕はひと月半ほど、就寝は午前4時という生活でした。会社に勤めていましたから、少し寝たら出勤。もう本当に疲れてしまって、終わった後、肺炎になりました。

……収支は？

必死で売りましたから、赤字にはなりませんでしたが。不思議なもので、一生懸命やっているのと、協力してくれる人も出てくるんですよ。

……訪日団の受け入れも苦労があるのでは？

僕らが受け入れる時は基本的に民泊なんです。だから、食べ物や言葉の問題はありました。それに国交回復当初は中国に悪感情を



大山田の日中友好の森にて、雑伎団の方たちと。

持っている団体などもありましたから、雑伎団や訪日団の妨害をされたりするのが怖かったです。雑伎団の公演の時などは警察がずっと付いていてくれましたよ。今はもう大丈夫ですけどね。

……言葉の問題はどうしたのですか？

通訳を探すことから始めました。上野にある中国料理店のご主人が中国から来た人を受け入れる保証人をしていて、人を紹介してもらいました。民泊だと通訳の人数も必要なんです。大人数を一度に受け入れられる個人宅はありませんから、中国から20人来たとしたら、4人ずつ5軒に分けます。そうすると5人は通訳できる人が必要になりますから。

……個人的な友だちも増えたのでは？

こちらに働きに来ていて、今は中国に戻られた人とは今でも年賀状などをやりとりしていますし、中国に行くとき会いにいきます。あと、人民対外友好協会とはしょっちゅう電話やメールをやりとりしていますから、ツーカーの仲かな。広東省であれば、誰かが「行きたい」と言えば、「連絡しておくよ」とは言えますね。ただ、僕自身は言葉ができないので、それがダメかな。お互いに言葉が話せない、本当のつきあいはできないんじゃないかなとは思っています。

……友の会によって、大山田の人が変わったところはあるですか？

しょっちゅう、中国の人が泊まっているから、大山田の人は中国人に慣れていていると思います。あと、中学生や小学生は中国を体で知っています。友の会を作った目的の一つに、将来を担う若者たちに国際的な視野を持った大人になって欲しいという想いがありましたので、子どもたちのサッカーチームを中国に派遣して、向こうの子どもたちと試合や交流を行っているんです。中国の子は体格が良いので、試合はボロボロに負けましたけど(笑)、子どもたちは仲良くなったようです。百聞は一見にしかず。日本でごちゃごちゃ言っているより、行けば中国という国を知って帰ってきます。お互いを知ること大切なことです。お互いに腹を割って話そうと思ったら、互いによく知っていないとできません。それを上辺だけなぞって、自分の立場からしか話ができないようでは問題は解決しません。そういう意味では市民レベルの交流も大事だと思います。今は中国と日本が、国レベルでぎくしゃくしていますが、僕らのように草の根で活動している者にとってはものすごく心が痛む問題です。僕はずっと友好交流を行ってきましたけど、曲がり角に来ているのかなと思います。僕らに解決する手だてはありませんが、両方が同じテーブルに着いて、お互いの国民が納得行くような解決をして欲しいですね。先日、大阪にある中国総領事館に招かれた時も、同じような話をしてきましたよ。

東 準一さんはこの人を紹介します。

久保美文さん

趣味の竹細工を生かし、さるびの温泉で竹細工の体験教室などを行っていた久保さん。近頃は教室を依頼されることもあるそうです。



中国の子どもたちとサッカーで交流。

お
ね
が
い

市民活動・ボランティアにユースに情報を提供される際、以下のことにご注意ください。

(1) 原稿はにユースにそのまま掲載できる状態にして、毎月15日までにお送りください。

(2) 送付はE-mailもしくはFaxで。その際、「市民活動・ボランティアにユースへの掲載のお願い」と件名を明記してください。

Fax.059-222-5971 E-mail seiknp@pref.mie.jp
転載を希望される場合は必ずNPO室に連絡してください。

100

PRINTED WITH
SOYINK

古紙100%、白色度83.5%の紙と環境にやさしい植物性大豆インキを使用しています。